

Q24 リモートコントローラーはどのような時に使いますか？

スーパーバッテリーレスキューは他のジャンプスターター同様に、車両のバッテリーに接続して使用します。ジャンプスタートスイッチをいれてから、始動電流が流れるまでに運転席に行ってセル（スタートボタン）を回さないと始動できません。

リモートコントローラーは、ジャンプスタートスイッチを手元で操作できるので、1人で作業する場合等に落ちついて作業できるようにする為のアイテムです。

手元のスイッチを押すと同時に始動電流が流れますので、自分のタイミングで始動可能です。リモコンにはLEDランプ表示があり、緑点灯→ジャンプスタート可能 / 緑点滅→ジャンプスタート電流出力中 / 赤点灯→本体への蓄電が必要等の状況がわかります。

Q25 製品の保証期間は？

本製品をご購入後 1年間となります。

ただし、お客様の誤ったご使用方法が原因での不具合の場合、保証対象外とさせていただきます。修理、検査依頼の際は「取扱説明書内の保証書」及び、「購入した事を証明できる レシート等購入日/購入した事がわかる資料」の提示をお願いしております。

最後に

ジャンプスタートは車両の性能や汚れ、タイミング等により、必ず一回でエンジンがかかるものではなく、無論 不良品ではありません。

一度でかからなくても、落ち着いて4,5回必ずトライしてください。

<新システム スーパーコンデンサ搭載> スーパーバッテリーレスキュー ジャンプスターター

SBR-12
Q&A

Q1 今までのジャンプスターターとどう違うんですか？

今までのジャンプスターターには、始動に必要な電気を蓄える為に、鉛、リチウム等の「電池」を搭載していました。その為「電池」に予め長時間充電を行いその電気を利用してエンジンを始動していました。

SBR-12は「電池」の代わりに大容量の「電気二重層コンデンサー」を搭載し、「セルを回すことができない弱ったバッテリー」から電気を吸収し、電圧を14Vまで昇圧し、エンジンを始動させるシステムを持った新世代のジャンプスターターです。その為、面倒な事前充電は必要ありません。

Q2 どんなバッテリーでも使えますか？

鉛バッテリー全般で使用可能です。
リチウムイオンバッテリーなどの特殊なものは、製造したバッテリーメーカーにご相談ください。

Q4 どのくらいの車までジャンプスタートできますか？

12V ガソリン車 6000cc まで
ディーゼル車 3000cc まで
の範囲で使用できます。

※エンジンや始動システムの物理的破損・故障の場合始動できない場合があります。

Q6 スーパーバッテリーレスキュー本体の寿命は？

搭載しているコンデンサーの寿命はジャンプスタート作業 10万回の耐久性があるパーツを使用しています。

しかしながら、他の電子パーツの耐久性を考慮し、適正に使用して頂いた場合のSBR-12製品本体の使用可能回数を 約 20000回とさせていただきます。

※脱着式のブースターケーブルは、使用状況によって交換が必要な場合があります。

Q9 一般的なジャンプスタートの場合、ブースターケーブルをつなぐ際にマイナス側のクランプをエンジンブロックやボディアースにつなぐのが一般的ですが、スーパーバッテリーレスキューの場合、ブースターケーブルをプラス/マイナス端子につなぐように指示があるが、大丈夫ですか？

大丈夫です。

本製品は、ケーブルをつないだ後、ジャンプスタートモードにした時のみ電気を放出する仕様となっている為、ケーブルをつなぐ際には通電していません。よって従来のブースターケーブルをつなぐ際の「パチッ」となる事はありません。

Q3 長い間放置してあった車両のバッテリーからも電気を吸収できますか？

できません。
バッテリーの電圧が 10V以下の深放電の場合は、外部
①12V バッテリー約 2分
②DC シガーソケット約 5分
③5V USB 約 40分
より蓄電して使用してください。

Q5 24V車には使えますか？

使えません。
SBR-12は12V専用です。

Q7 電気二重層コンデンサーの安全性は？

近年電気二重層コンデンサーは、アイドリングストップ車の再始動時や、風力発電の部品として採用されています。製品の特性上 温度環境の影響も少なく、一気に蓄電/放電をしても膨張・破裂・発火などの心配がなく極めて安全な部品です。

Q8 ハイブリット車や外車に対応していますか？

問題ありません。

しかしながら、車種によってはジャンプスタートする場合の注意点（CPUリセット・接続方法等）がある場合がありますので、作業前に取扱説明書を確認の上ご使用ください。

Q10 プラスマイナスを逆につなぐとどうなるの？

極性を間違えてつないしまった場合、警告アラームとともに本体ディスプレイに

PROTECTED という警告が表示されます。

この場合速やかにケーブルを外して1度電源を切ったのち、再度正しい極性につなぎ直してください。

Q11 サージ電圧対策はしていますか？

しています。

TVS ダイオード等の保護回路を搭載して、サージ電圧を吸収します。

ただし、ジャンプスタート電流出力中は、この保護回路を通さずに始動電流を一気に放出しますので、ジャンプスタートアラームが鳴っている間のケーブルクランプの脱着は絶対に行わないでください。ショートによる車両/本体の故障・破損の原因となります。

Q12 1度蓄電すると何回ジャンプスタートできますか？

1度の蓄電で1回です。

ただし、1度ジャンプスタート終了後は自動的に蓄電（セルフチャージシステム）し、続けて何台でもジャンプスタート可能です。

Q13 蓄電した状態でどのくらいの時間電気を維持しますか？

約15時間ジャンプスタートをできる電圧を維持します。

（表示3メモリ、**STANDBY**表示があればジャンプスタート可能です）

Q14 寒冷地で使用できますか？

寒冷地では-20℃まで使用できます。

内蔵コンデンサーは-40℃まで性能を発揮できる仕様ですが、他の電子パーツが正常に作動しなくなる恐れがある為使用可能範囲を-20℃までと設定しています。

Q15 高温の場所でも使用できますか？

高温環境では60℃まで使用できます。

温度センサーを内蔵し、コンデンサー表面温度が60℃を超えると警告します。使用しない場合は、常温（10℃～25℃）での保管が、製品本体にとって負担のかからない温度となります。

Q16 バッテリーにつないでも本体の電源が入らない（電圧が表示されない）のはなぜですか？

スーパーバッテリーレスキューは内蔵電池を搭載していない為、本体のコンデンサーが完全放電している場合、車両側バッテリーの電圧が5V以下の状態で本体をつないでも蓄電できません。

その場合は外部蓄電を行ってください。

Q17 使わないと勝手に電源がきれてしまうのは何故ですか？

スーパーバッテリーレスキューは、蓄電した電気をなるべく長く蓄える為に、「オートパワーOFF」機能を搭載しています。

作業していない場合、約1分で電源をOFFにします。再使用の場合は、セレクトボタン/リモートコントローラーで電源を入れてください。

Q18 バッテリーにつないで、蓄電ができない場合の表示はありますか？

あります。

バッテリーにつないで、電圧が10V以下の場合、マークが点灯します。

この場合は、1度ケーブルを外して外部蓄電をお願いします。電圧も表示されますので、電圧が10V以下の場合は1度ケーブルを外して外部蓄電をお願いします。

Q19 バッテリーにつないで蓄電している時の表示はありますか？

あります。

バッテリーにつないで蓄電している時は、4段階のメモリ表示と、**RECHARGE**マークが表示されます。

スーパーバッテリーレスキューは、4段階のメモリのうち3段階のメモリが表示されている時にジャンプスタートが可能に設定しています。

3メモリ以上になると、ジャンプスタートが可能な**STANDBY**の表示がでますが、製品の性能を最大限発揮させる為に、4メモリ点灯まで蓄電する事をお奨めします。

電圧も表示されますので、電圧が10V以上と表示されている場合はケーブルをつないで蓄電されるのをお待ちください。

Q20 雨の日に使っても大丈夫ですか？

本体は防滴仕様となっているので大丈夫です。

ただし、ブースターケーブルとの接続部および、リモコン/蓄電ケーブル接続部は防滴カバーを外した状態では防滴効果はありませんので、この部分に水がかからないようにご注意ください。

Q21 警告アラームはどのような時になりますか？

- ①ブースターケーブルを逆につないでしまった場合
- ②コンデンサーの表面温度が60℃以上になった場合
- ③本体に過充された場合
（充電回路が故障している車両などで、エンジン始動後に大きな電圧/電流を流す場合があります）
- ④本体から過放電した場合（ジャンプスタートが困難で、コンデンサーからの電流が規定を超えた場合）
上記の状態になった場合、連続したアラームと同時に本体表示部分に**PROTECTED**の表示がされます。

この場合速やかに本体ブースターケーブルを救援車両から外し、セレクトボタンを長押しして本体電源を切ってください。

その後、再度電源を入れ直すとリセットされます。

Q22 ジャンプスタートする時の注意点を教えてください。

①事前清掃をしてください（ブースターケーブルクランプ及び車両の接触ポイント）

車両のバッテリーにつなぐ前に、必ず同梱もしくは市販のワイヤーブラシ等でブースターケーブルとの接続部分と、ブースターケーブルクランプを清掃してからつないでください。またバッテリーターミナルとの接触面をなるべく多く接触するように調整してください。

車両同士で接続する場合や、鉛バッテリーを積んでいるジャンプスターターと違い、コンデンサーに蓄えた始動電流を一気に放出して始動させる為、電気の通り道であるバッテリーターミナルとの接点が非常に重要になります。表面がキレイに見える場合でも、必ず清掃を行ってください。

②セル（スタートボタン）を回すタイミングにご注意ください

始動電流が出力されるのは、アラーム音がなっている間（本体には、マーク点灯/リモコン使用時には、LED表示緑点滅）のみですので、ジャンプスタートボタンを押した後にアラーム音が鳴っていない時にセル（スタートボタン）を回しても始動できません。アラーム音がなってから、エンジンを始動させてください。

③始動電流出力中（アラーム音が鳴っている間）は絶対にケーブルを外さないでください

始動電流が出力されている間は、大電流が車両バッテリーの放出されています。この時のケーブル（特にプラス側）を外して、その先端がボディ等のアースに触れてしまった場合電気溶接のように火花とともにショートし、車両および製品本体が破損・故障しますので、絶対に外さないでください。同様にブースターケーブルは作業中に振動で外れないようにしっかりと取り付けてください。

Q23 ジャンプスタートが成功したら、その後どうすればいいですか？

ジャンプスタートが成功した後、再度コンデンサーに補蓄電を自動的に開始します。（セルフチャージシステム）

アラーム音と、本体のディスプレイを確認しアラーム音が止まり、**RECHARGE**表示が消えたら車両からケーブルを取り外してください。